

ナチュラルプロダクトアソシエーションがメディカルジャーナルの ビタミンと死亡率の研究についての欠陥を指摘

2007年2月27日ワシントン DC

{ナチュラルプロダクトアソシエーションは本日、2月28日発行のアメリカ医学学会誌（JAMA）に掲載される抗酸化物質が死亡率を高めるというメタ分析結果は、誤解を生じ易く、殆どの臨床試験は抗酸化物質が安全で有益であるという結果を出し続けていると抗議した。}

“著者の論点をよそに、この分析は予防試験に健常者対ハイリスク及び患者の死亡率を評価している。死亡率のリスクは、患者人口の研究だけに起因しなければならないが、この研究は違っている。代わりに、これらの結果を健常者にも当てはめて一般的に扱っており、それは様々な意味で間違っている”とナチュラルプロダクトアソシエーション学術副課長のダニエル・ファブリカント博士は語った。
“しかし最も問題なのは、安全に有効にビタミンを摂っている人々が、摂取を止めることによって実際には彼らの健康を危険にさらしてしまうことである”

ファブリカント博士は、一見矛盾したこの研究結果が多くの消費者を困惑し、それに関係した情報に懐疑的になることを心配している。

“例えばちょうど昨日、スウェーデン人の研究者たちがビタミンAは胃がんのリスクを下げるのに役立つかもしれないという発表を行った。そのうえ皮肉にもこの医学雑誌（JAMA）は、アルツハイマーのリスク減少から黄斑変性症、そしてHIV患者の免疫向上まで、抗酸化物質の健康効果についての研究結果を発表している”

この分析の内容で、他に考慮すべき点は次の通りである。

●もしも抗酸化物質を使用しての臨床試験において死亡率向上が明瞭となっていたとしたら、既に様々な研究が中止となっていたはずである。

●欧米の約1億6000万人の人々が問題のサプリメント（抗酸化物質）を使用している。もしも著者が憶測している通り、抗酸化物質が本当に健康に危険だとしたら、それは今日までに明瞭となっていたはずである。

●臨床的に意味があるメタ分析を実行することの最初のハードルは、メタ分析に含まれる研究がどれくらい類似していなければならないかという基準である。類似していればしているほど、もっと有効なメタ分析だといえる。この場合、研究は非常に異なり、メタ分析の終結は実際の臨床研究の結果と一致していない。そのうえ抗酸化物質の多くの無作為化臨床試験が存在しており、それらの研究からのデータはこのような断片的なメタ分析よりずっと意味があり関連性がある。